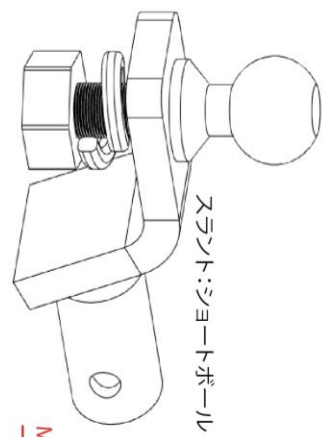
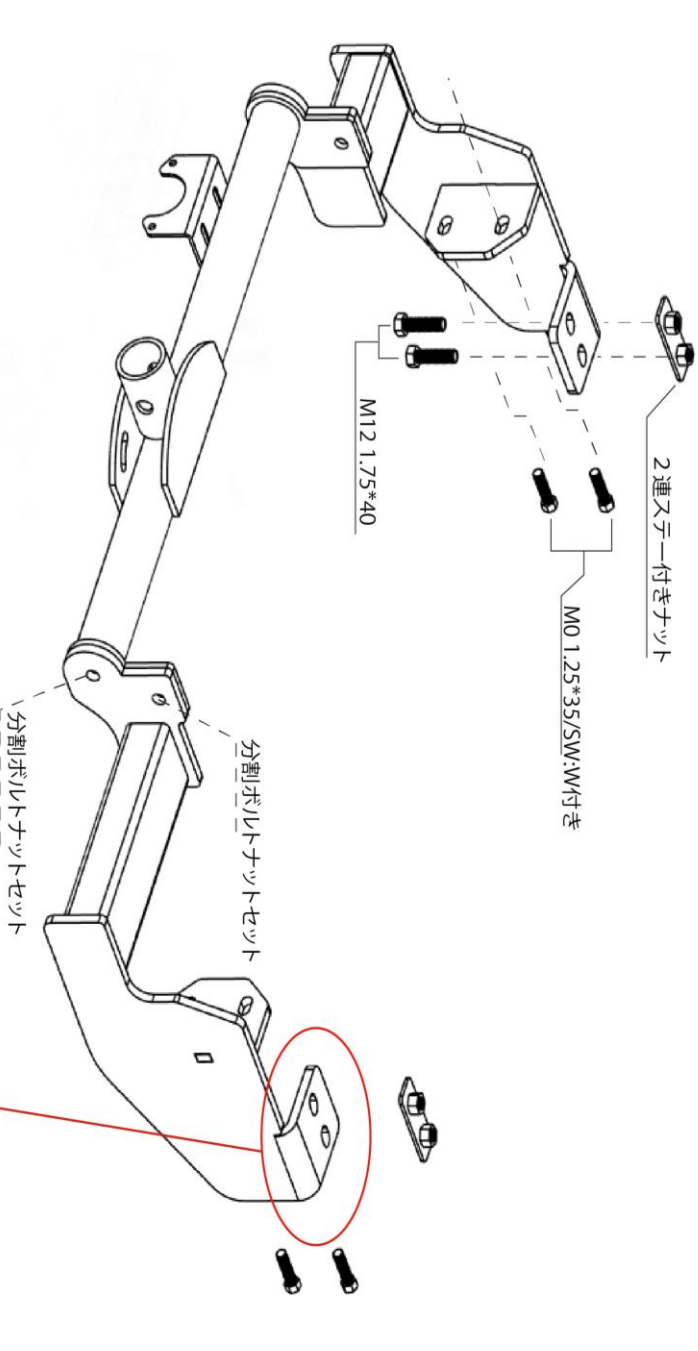


締め付けトルク

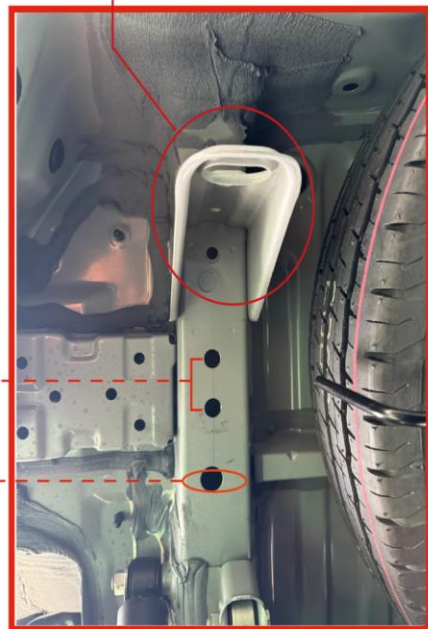
ボルト名称	サイズ	締め付けトルク (N//m)
コネクター取付ボルト	M6	3.47
ヒッチメンバー取付ボルト	M8	22.5
	M10	44.5
	M12	77.6
	M14	124
ヒッチボールナット	M27	500

取り付け手順

1	車体フレームにサイドプレートをあてがい穴あけ位置を左右2ヶ所ケガいてください。
2	ケガいた場所に13から15πの穴をあけてください。
3	また既存穴に2連ステー付きナットが入る大きさの穴をあけてください。*図面参照
4	M10ボルトを使用する箇所を10π~12πに拡張してください。
5	サイドプレートを付属のボルトを使用して仮止めしてください。
6	ヒッチメンバー本体とサイドプレートを分割ボルトナットセットを使用して仮止めしてください
7	全体のバランスを見て本体とサイドプレートから本締めして最後に車体フレームとサイドプレートを固定してください。
8	*全ボルト中強度ゆるみ止め推奨*
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

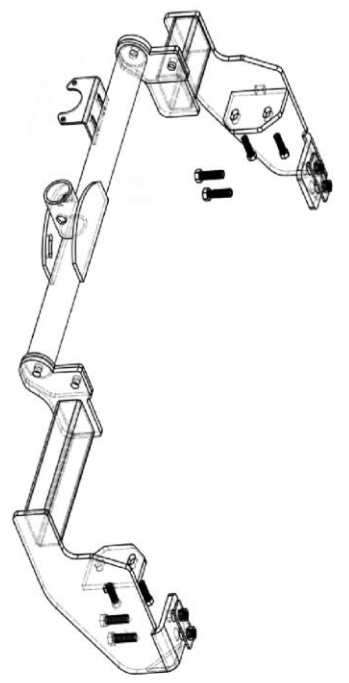
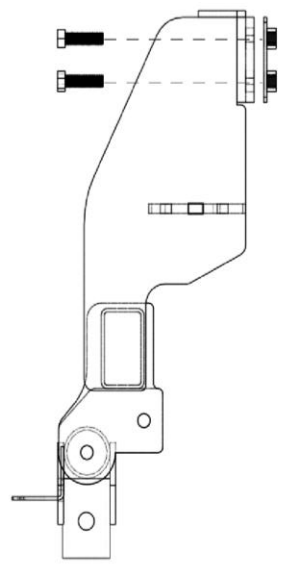


M10ボルト使用箇所



左右フレーム△13π~15π穴あけ:穴ピッチ40mm!

2連スチー付きナット挿入口:長穴加工



この度は、タイトヒッチをご購入いただき誠にありがとうございます。
本製品を安全に正しくご使用いただくために、この取り付け説明書等をよくご確認ください。

構成部品 PROBOX 6AE NHP160V

No.	名称	個数
1	ヒッチメンバー本体	1
2	サイドプレート	2
3	ヒッチボール（ショート）	1
4	ボールマウントロックキー	1
5	7極コネクター（車側）	1
6	6芯配線セット：分割ボルトナットセット	1
7	ボールマウント：スラント	1
8	M12 1.75*40	4
9	M10 1.25*35/Sワッシャー・ワッシャー	4
10	2連ステー付きナット	2
11		
12		
14		

取付上の注意

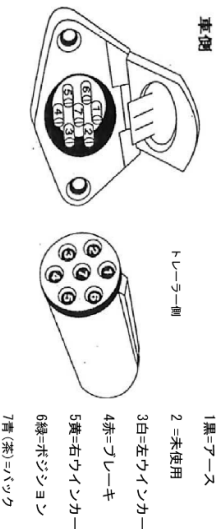
- ・ 取付作業を始める前に構成部品の不足、不良等を確認してください。
- ・ 製品の製造、梱包には万全を期しておりますが、部品の不足、不良等ございましたら、お買い上げの店舗までご連絡ください。
- ・ ステンレスボルトナットは焼き付きを起こす恐れがありますので、潤滑剤等を使用し、締め付けてください。
- ・ ドリルを使用する作業は、電気配線の巻き込みや、誤った位置の穴あけ等にご注意ください。
- ・ 各取付ボルトは、適正トルクでしっかり管理してください。

TIGHT HITCH。取扱説明書

TIGHT JAPAN

電気配線コネクター配線図

●7極配線ケーブルの接続



ヒッチメンバー取付に関する注意

ヒッチメンバーを車両に取り付ける事は必然的に車体から突起物(ヒッチメンバー)が増えることとなります。や人に損傷を与える可能性があります。

ヒッチメンバーが地面に接触したり後方の物や人に損傷を与える可能性があります。

トレーラー用電気配線を車外に設置することで悪天候での走行でコネクタークラッシュに水が溜まったり、コネクタ一部分が地面やその他に接触することによって車両本体の電気系統に支障をきたす場合があります。

ヒッチメンバーは車両に取り付けた時点から劣化が始まります。車両の下部に取り付ける事になりますので使用頻度に関係なく金属が劣化します。

特に道路上に散布される凍結防止剤等が劣化を早める要因になります。使用頻度に関係なく常に牽引前は必ず点検を行い錆や亀裂、上から力をかけて異音などがあれば使用を中止してください。

これらの事を十分にご理解いただいたうえでヒッチメンバーを取り付けてご使用ください。

配線注意事項

- 電線が融れてショートしないように注意して下さい。
- ボテインとの摩擦、接触がある場合はテープ等で保護して下さい。
- 電気配線コネクタ一側に差し込む配線先端は弱いので必ずハンダ付け、もしくは専用コネクタ一を取付けしてから差し込んで締め付けて下さい。
- 配線終了後はトレーラーと連結して点灯確認して下さい。
- 防水の為、差し込み側と配線側にグリスを差して下さい。
- コネクタ一部分を水中につけないでください。

取扱注意事項

- このヒッチメンバーで750kg以上(車種によっては400kg以上)のものや、自動車などを牽引しないで下さい。
- 出発前の点検時に歪み、亀裂、ボルトの緩み、脱落等を発見した場合や直ちに使用を中止して下さい。
- トレーラー牽引中は、起伏の激しい道路や舗装されていない道では必ず徐行して下さい。
- 強度低下につながりますので、分解、改造をしないで下さい。
- ヒッチメンバーを取り付けたら地面とのクリアランスが少なくならないように、勾配のついた出入口や車止め等に当てないように注意して下さい。
- 最大垂直静荷重(カブラー荷重)が10kg以上45kg以下の範囲を超えないようにトレーラー種載物を調整して下さい。
- 車側ボジションランプ、ハザード等電気が流れている状態で、配線電気カブラーの抜き差しをしないで下さい。

ヒッチメンバーの許容範囲

ヒッチメンバーの許容範囲についてA, B, Cクラスと牽引能力を定めております。

- A・・・車両総重量400kg以下のトレーラー
 - B・・・車両総重量500kg以下のトレーラー
 - C・・・車両総重量750kg以下のトレーラー
- 最大垂直静荷重(止まっている状態でヒッチボール部に垂直に掛かる荷重)は10kg以上45kg以下

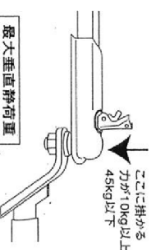
キャンピングトレーラーの場合、トレーラーの車検取得時に車両総重量750kgで登録されていても、実際の使用時には総重量を超えている場合が多く見られます。カスボンス、エアコン、その他のオプション部品と家具(テレビ、レンジ、食器)などが検査の後には積み込まれますので、かなりの重量になります。

特に危険であるヒッチボール部分に掛かる最大垂直静荷重(カブラー荷重)も許容範囲を超えてしまいます。ボートトレーラーの場合でもボートの積載位置や、セッティングが悪いと同じこととなります。

当社の推奨する最大垂直静荷重(止まっている状態)は10kg以上45kg以下です。すなわちトトレーラーのカブラー部分を人の力で持ち上げることが出来る位としています。仮に最大垂直静荷重が45kgとした場合、実際に車が走行すると45kg×2.5倍=112.5kg位の力が車の最後部に掛かる計算になります。

ヒッチメンバーの許容範囲はもちろんカブラーに掛かる垂直荷重の方が十分に注意が必要です。

最近の衝撃吸収ボテインや燃費向上を図った軽量化のため、特にモノコックボテイン一車は車側を取る付部分弱く、破損する恐れがあります。



そう言ったことが起こらないよう、トレーラー車両総重量を必ず厳守していただき、キャンピングトレーラーは荷重が前方(カブラー部分)に掛かり過ぎないように室内の荷物を調整し、ボートトレーラーもボートの積載位置を調整するなどして下さい。

どうしても許容範囲を超えて使用する場合はヒッチメンバー及び車体の強度を増す改造が必要です。詳しくは弊社又は販売店にお問い合わせ下さい。

ヒッチメンバーの牽引能力、ヒッチボール部分に掛かる最大垂直静荷重(カブラー荷重)の許容範囲を超えてのご使用は当社では一切責任を負いかねますのであらかじめご了承下さい。

▲ 走行前は必ず以下の点検を行って下さい ▲

- 各接続部の亀裂、亀裂、脱落。
- 灯火類の点灯確認。
- ヒッチボールの緩み、偏磨耗、亀裂。
- ボールマウントの亀裂、歪み。
- ボールマウントキーの装着確認。